

# WUB Tokyo NEWS

## No. 5 2005.7.1

発行/WUB東京 広報委員会

発行責任者/長嶺 為泰

WUB東京 事務所

〒105-0004 東京都港区新橋1-13-12 堤ビル3F

「沖縄ツーリスト東京支店 大城友宏」 気付

電話(メッセージ)またはFAX 03-3487-6115

URL <http://wubtokyo.com>

E-mail [info@wubtokyo.com](mailto:info@wubtokyo.com)



### INDEX — 関西大会特集 —

第9回WUB世界大会 関西2005の報告—WUB東京会長 長嶺 為泰  
「WUB世界大会 関西2005の企業訪問に参加して」—菅原 律子  
～海外便り～WUB北米編—斎藤 陽子  
「世界大会を振り返って」—小畑 耕行  
「IDB沖縄総会に出席して」—重田 辰彰  
WUB活動を通じての人的交流促進とビジネス創出の事例紹介  
・沖縄から全国へ情報発信します—屋良 朝夫  
・「就職の翼」とWUB—又吉 孝  
WUB東京フラッシュバック(04年10月～05年5月)  
WUB東京会員の近況報告—  
国古 真理子・高倉 玲子・高宮城 徹夫・平良 智広・讀谷山 洋司・花城 可雅  
情報発信掲示板—新入会員紹介/編集後記

## 第9回WUB世界大会 関西2005の報告 (2005.4.6～8) WUB東京会長 長嶺 為泰

昨年8月のアルゼンチン大会にて突然大阪に指定され、短期間の準備にも関わらず今年世界大会開催が内容共々素晴らしい結果となった事はひとえに仲里会長ご夫妻、八城実行委員長ご兄弟を始め、実行委員の皆様及びオブザーバーとして仲里会長を支えた小畑氏の限りない努力の成果であると、

皆様に心から感謝、ご苦労様と申し上げます。WUB関西は僅か34名の会員にも関わらず、今大会開催に当たり個々の会員が今まで培われた人間関係を最大限に活かし、関西の沖縄県人連合会の協力を得、沖縄関係のみに限らず大阪市、大阪府や議員の方々へ広くWUBの存在・活動をアピールできた事は最大の成果だと感じました。又、世界大会は財政の裏付け無くして成り立たないのは当然の事で、広告集めや寄付金集めに関してもさすが大阪商人の町、短期間でこの難問題を見事クリアされた事にも感銘を受けました。今大会の絆や体験を大切に活かし、WUB関西が益々発展される事を心からお祈り申し上げます。

以下は「WUBインターナショナル支部会長会議」と「世界大会」のサマリー。



WUBインターナショナル支部会長会議

エル・リュウ・ミンチー・フィリピン パージ  
比嘉ソリス/・ヨーロッパ地区副会長・  
ヨーロッパ 新崎康郎 (フランス)

②会計年度：1月1日～12月31日、2005  
年3月31日現在 残高US\$22,721.83



③「第10回WUB世界大会ペルー2006」及び「沖縄県人ペルー移住100周年記念式典」開催について：2006年1月25日(水) 第10回WUB世界大会ペルー2006/26日(木) 企業訪問及び市内観光/27日(金) ゴルフ大会/28日(土) 県人会長会議、市町村懇親会/29日(日) 沖縄県人ペルー移住100周年記念式典/30日(月) ゲートボール大会

④第11回WUB世界大会の開催地について：北米ロス会長代理の上原民子氏よりロスにて開催したい旨の報告があり、了承された。



第9回WUB世界大会関西2005開会宣言 (八代正明実行委員長)

### 1. WUBインターナショナル支部会長会議

①WUB組織図(地区副会長及び理事)：・名誉会長 稲嶺恵一・創設者 仲宗根ロバート・前会長・顧問 呉屋守将/・インターナショナル会長 与那嶺真次・事務局長 知花良治・事務局協力 當山市代・事務局長補佐 ドーン宮城・会計 高田リリアン/・南米地区副会長・ペルー 赤嶺光弘・ブラジル 知花良治・アルゼンチン スサナ比嘉・ポリビア マルコス中田・メキシコ ユミコ・ベイランド山川/・北米地区副会長・北米 ノーラン比嘉・カナダ マイク嘉陽/・太平洋地区副会長 スティーブ・ソンプレロ・グアム ジェイムス・オダカ・ハワイ ウェスリー坂本・マウイ クラレンス上原/・日本地区副会長・沖縄 牧志泰三・東京 長嶺為泰・関西 仲



WUBインターナショナル支部会長の皆さん

里真光/・アジア地区副会長・タイ 大城忠・シンガポール 照屋和弘・台湾 屋嘉比保・中国 東浜永松・香港 エバン・ミャオ仲本・マレーシア ダニ

### 2. 世界大会

大会スローガン：「人」「食」「水」KANSAIは沖縄と世界をつなぐ。

沖縄は イチャリパチョーデー：人：KANSAIは人情の街  
沖縄は ヌチグスイ：食：KANSAIは食いだおれの街  
沖縄は 万国津梁：水：KANSAIは水の都

(関西地方は全国で最も多くの沖縄出身者が在住している町である事を強調している思いがする)

①歓迎セレモニー/文楽上演「寿二人三番叟」(日本の重要無形文化財を世界各地から参加したWUBメンバーへの紹介は日系人としての認識を深め、大いに勉



格調高い文楽の歓迎セレモニー





●大会前日、体調不調にも関わらず関西大会成功に向け全力投球の小畑監事を囲み、前夜祭で多に盛り上げ中！（あくまでも体調を心配しながら）

●流石！国立文楽劇場を持つ文楽の本拠地「大阪」格調の高さと歴史を認識。



●WUBパーティーに気合いの入ったオメカシのWUB東京メンバー紳士・淑女達



●8日のオフショナルツアーで企業訪問した(株)エーデルワイスでおいしいお菓子和ワインに舌鼓、甘党もお酒党も両方、満足！満足！



●オフショナルツアーで桜満開チヨット手前のお城前で

強になった]

②開会宣言／実行委員長 八城正明氏〔大阪生れの2世としてビジネス人らしく大阪大会をWUB発展に結ぶ心意気を見せた〕

③歓迎の挨拶／大会会長 仲里眞光氏〔故郷へのチムグクル、ウチナグチの大切さ、沖縄の伝統や思いを素朴な気持ちで参加者へ伝え、イチャリパチョーデーとWUB会員同士の発展を祈念する〕

④主催者の挨拶／WUB IT会長 呉屋守將氏〔今大会最後にWUB国際化をバトンタッチしたが、WUB創立から今日まで、中宗根創設者、牧志WUB沖縄会長と共に世界各地を訪問、各地でのWUB創設や会員増強、活動、発展の為に多大な貢献をなされた成果が今日のWUBの姿である事は紛れも無い事実であり、WUB会員の一人として心から感謝申し上げたい。今後、顧問職に就かれても今日まで蒔いてきた種の実り多い成果を楽しむ意味からも今まで通りの愛着と協力をお願いしたい〕

⑤祝辞／沖縄県知事代理、嘉数昇明副知事〔WUB組織は根底にビジネスがあり、世界各地で活躍する故郷沖縄を愛するメンバーの集いで、沖縄の自立経済の為に多大なる貢献の可能性を秘めており、県行政との密接な連帯、協力は必要不可欠と考える〕／大阪市長 関 淳一氏、大阪府知事代理、副知事〔大阪市、大阪府は全国でも沖縄出身者が多く、大会を起点に益々沖縄・ウチナンチュとの絆が深まる事を祈念する〕

⑥基調講演1/「沖縄の長寿と26ショック」女子栄養大学教授 宮城重二氏〔講演の一部を転載(沖縄に学ぶ長寿7カ条 1)肉類(特に豚肉)を過不足なく食べる、2)豆類(特に豆腐)も肉類とバランスよく食べる、3)野菜や海藻類(特に昆布)も多く食べる、4)塩分摂取が少ない、5)運動や労働を続け年中体を動かす、6)「テグー主義」で心のゆとりをもって生きる、7)「共存社会・ヨコ社会・ホンネ社会」を生きる。>大変興味ある内容であった〕



宮城重二 女子栄養大学教授

基調講演2/「お菓子、一筋50年の歩み」(株)エーデルワイス 代表取締役会長 比屋根 毅 氏〔講演を聴き、翌日85名のメンバーで工場を見学、数々のお菓子の製造工程や賞を見聞、比屋根氏の限りない

努力と素朴なお人柄に触れ、一同感銘を受けた〕

⑦各支部紹介・基調提案/「WUBネットワーク構築プログラム」琉球大学教授 米盛徳市氏/「WUB投資会社 事業説明」WUB沖縄会長 牧志泰三氏

⑧ビジネス交流会/各国からの商品紹介や展示で会場は大いに盛り上がった。

⑨会長交代式典/呉屋守將 現会長(沖縄)から与那嶺真次 新会長(ブラジル)へ引き継ぐ。

⑩WUBパーティー/琉舞、民謡、エイサー、カチャーシーで多に盛り上がった。最後に次期WUB世界大会開催地交代式(ペルーへ)で閉会となる。



まとめとして、

WUBとは“沖縄とビジネス”を根底に集い10年目に入るが、今総会に参加して会員の皆さんが必ずしも単純な“商取引”だけを目的としているのではなく、世界に在住するウチナンチュのチムグクルを大切にイチャリパチョーデー精神を持った会員が集い、連帯感を持ち、個々の持つ知識と特徴を共有し、更なる親睦を深め、発展していくことで最終目標の商取引・ビジネスへの可能性を協力しあえばとの思いを持ちながら世界大会へ参加しているのではと感じたのは私一人だけだろうか。私自身、1999年、第3回世界大会 ロス開催に参加、以後、沖縄、東京、ボリビア、ハワイ、アルゼンチン、関西大会に参加し、世界各国のメンバーとの再会はビジネス以上の大事なものを得ていると再認識している。

最後に今大会にWUB東京を代表し、関西開催決定から大会終了までの期間、毎週の様々にWUB関西実行委員の方々とはびろびろと会い、ご協力いただいた小畑監事のチムグクルとイチャリパチョーデー精神、側面的に小畑氏をサポート頂いた三島事務局長のご協力に心から感謝申し上げます。

## 「WUB世界大会 関西2005の企業訪問へ参加して」

菅原 律子

開会式第二部、(株)エーデルワイス 比屋根会長の基調講演には大変感動しました。十代の若さで単身渡阪し挫折に遭いながらも「ケーキコンテストの賞状やトロフィー」を担保物件に銀行融資に回った話には迫力を感じました。明けて8日は基調講演を聴いた参加者で追加人数が倍に膨らみ、バス2台を連ねての工場見学となりました。



到着するとまず菓子製造機などをコレクションした美術館を廻ります。「お菓子文化を伝えたい」という比屋根会長の熱意で4000点もの展示がありました。中には1700年台の古い道具もあり、貴重なコレクションです。この後見学者は工場内を見せて頂きましたが、製造過程の見学中にも拘わらず仕事中の皆様がとても明るいあいさつで迎えてくれました。



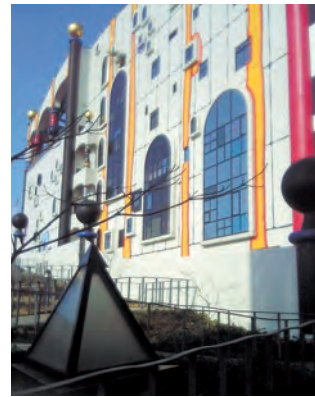
オート化しているセクションと、人の手が丁寧に加えられていく箇所との対比を説明してもらいましたが、近年お客のニーズはますます厳しく「本物」「手作り」への要望が増えているとのことでした。現在お菓子とパンで4ブランドを展開しているそうです。工場見学のWUBの皆さんへも「1年は11ヶ月しかない」と仰る比屋根会長自ら1ヶ月は渡欧して研修に充て、又、技術提携、研鑽の為毎年社員をヨーロッパに派遣なさっているとのことでした。お菓子を「食文化」という位置づけで捉えている視点は、石垣島から大阪を目指し、既にもう世界に向けられているものを感じました。企業訪問の2軒目は、午後から大阪市環境事務局のゴミ処理



焼却工場「舞洲工場」へ向いました。ここは大阪10番目の工場で大阪最大(450t/日)の焼却工場です。たまたまこの工場見学のタイミングで朝のTVバラエティー番組に「大阪府の壮大な無駄遣い」ということでレポートされていました。



工場では入り口から内部までに少しの空地にも植栽され、築山があり散策しているような感じです。周到的な設備計画のお陰で、音も出さず、空気もきれい、汚水も出さないで、隣接のスポーツアイランドでは野球場やキャンプができ、サッカーコートは大阪のJリーグチーム セレスト大阪の練習場になっています。この施設は実は途中からオーストラリアの建築家フンベルトヴァッサーに再設計を依頼されました。ヴァッサーは「自然を壊して建物は作られるので、出来た建物に自然を創るべき」との思想で取り組んだとありました。今このような清掃工場は



オーストラリア・シュペテラウと舞洲の2つだけで、この2つの工場は提携して情報交換し環境問題を世界にPRしていくようです。冒頭のTVレポートに戻りますが、いわゆる「迷惑施設の負の部分はどう捉えるか」というテーマに「ゴミを収集した所で焼く」その施設については公害を出さないばかりか地域にいい環境を提供する、ということにならないでしょうか。コンセプトが解ると、奇妙な建物もより身近になってくる気がします。

比屋根会長の(株)エーデルワイス工場見学後に「講演依頼」や「子供を是非就職させたい」などの手紙が11通寄せられたそうです。比屋根会長への講演依頼は昨年10月関西ビジネスフェアの際からのラブコールで、舞洲工場は昨年仲里会長自らが視察した際に「是非関西大会での企業訪問に」との思いが実り二つの企業訪問が実現したとお聞きしました。二つとも特にWUB会員の企業、施設ではありませんが、世界を視野に入れて企業活動、発信しているという点で大変刺激的で良い企画だったと思いました。

TOHOKU ENTERPRISE CO., LTD.

TECO

株式会社 東北エンタープライズ

- 原子力発電所技術サービス
- SENIOR FLEXONICS INC. MBD 日本総代理店
- 工業機器類輸入販売
- 技術英文翻訳

※当社は電気・計装および機械技術の学生および経験者を募集しています。

〒979-1111 福島県双葉郡富岡町大字小浜字大膳町119-3  
TEL 0240-22-5963 FAX 0240-22-5630  
e-mail: teco@lily.ocn.ne.jp URL: <http://tohoku-enterprise.com>



## ～海外便り～WUB北米編

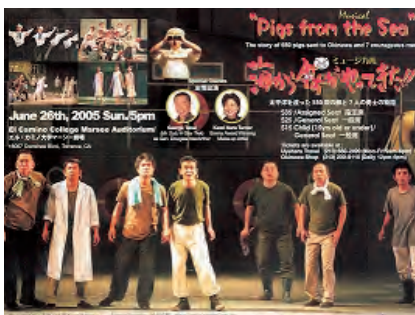
## ミュージカル『海から豚がやってきた!!』公演に向けて

齋藤 陽子

WUB世界大会 関西2005を終えて帰国した、WUB北米会員は、時差ぼけを修整する間もなく、6月26日に沖縄からのミュージカル「海から豚がやってきた!!」(主催: WUB北米後援: 在LA日本総領事館、沖縄県、国際交流基金、沖縄県具志川市、WUB沖縄、WUBハワイ、その他)カリフォルニア公演(マーシー劇場2,000人収容)を控えて、その準備に追われている。

このミュージカルは2003年沖縄具志川市の市制35周年を記念して、市民参加型のミュージカルとして制作されたもので、すでにハワイ公演は好評のうちに昨年行われている。

このミュージカル「海から豚がやってきた!!」の筋書きは、これまで沖縄でも余り知られてなく、数年前に放送されたNHKドキュメンタリー「太平洋5,000キロ豚輸送作戦」で、初



めて明るみになった実話だった。

豚が沖縄へやって来た経緯を、在LAの金城武男氏がコラムに記載しているので引用させて頂く。『米国軍隊百大隊442部隊に

志願し、ヨーロッパ戦線で米国兵として活躍した比嘉太郎一等兵は、負傷して本国送還となった時に、ヨーロッパ戦線で奮闘活躍した日系米兵の報告をしてもらった。そのうち沖縄戦が始まり、比嘉一等兵はヨーロッパ戦線で戦場住民の生活の苦しみと、その悲惨な状況を目にしていたので、戦火に巻き込まれた沖縄県民を思い、慰めと援助を思いたち、沖縄行きを米軍当局に申請した。当局は比嘉一等兵のヨーロッパ戦線での活躍や、比嘉氏が日英そして沖縄方言を話すことなどを認めて、沖縄行きを許可した。沖縄では惨憺たる戦場の跡を目の当たりにし、ハイラー大佐らの好意で、第十軍司令官バクナー中將にも紹介され、救済運動の必要を説明した。その後、比嘉氏はハワイに帰り、海軍当局者に会い、沖縄の戦災被災者に救いの手助けとして、海軍側の援助をお願いしたところ、大佐は「当局はあなたの方の話聞き、沖縄民衆に同情し、全面的な援助の約束を誓いましょう」と述べた。これは沖縄への救済物資輸送の全責任を海軍が引き受けるという意味でもあった。ここからハワイ・カリフォルニアの沖縄系を中心にした、沖縄への教育、福祉、衣類救済運動が盛り上がり、家畜(豚、山羊)種子物などが輸送された。豚550頭の輸送では沖縄系7人が航海中の豚の世話をし、その中には比嘉太郎氏も含まれていた。比嘉太郎氏は現在WUB北米支部の会長を務めている、比嘉ノーラン医師の尊父である。』

このミュージカルは、ハワイの日系人達の生活がパールハーバー奇襲攻撃によって一変した様子から、沖縄にルーツを持つ日系米兵により報告された沖縄戦の惨状に、ハワイの沖縄県人たちが立ち上がり、苦労の末に豚550頭を購入、

マッカーサー司令官のはからいで、米軍輸送船を無料貸与され、7人の航海の苦労と沖縄県民に豚を引き渡すまでの、ミュージカル物語である。

すでにLA側でも、エキストラ出演者を募り、20人ほどがオーディションに受か



り、沖縄側の出演者と舞台を一緒に踏むことになり、現在特訓中である。また、このプランを進めて行く内に、主催側も思わぬ展開に驚いているのが、ハリウッド俳優のジョージ・タケイ氏がマッカーサー役で特別出演を引き受けてくれ、司会を映画「空手キッド」などに出演しているタムリン富田がひき受けてくれた。また米TV最高栄誉のエミー賞メーキャップ部門を受賞しているカオリ・奈良・ターナーさんは、出演者のメーキャップを引き受けている。三人ものハリウッド映画関係者の日系特別ゲストのボランティアを得て、主催側のWUB北米関係者を大変喜ばせている。

演出の池内美舟さんは、エンタテインメントの本場LAに、ミュージカルを持ってくることは、すごいプレッシャーを感じる「いちゃりばちょーで」の言葉どおり観客の「兄弟」たちも、このミュージカルのウチナンチュの気持ちをきくと受け止めて頂けると思うと語っている。

この海を渡った550頭の豚が、戦後各家庭で飼育繁殖され、沖縄県民を飢えから救い、現在では豚肉消費量日本一となった沖縄を築いた。

## 齋藤陽子さんからのお知らせ

6月7日に立ち上げました、全国のこだわりのフルーツを産地から直接お届けする産直専門ネットショップ《こだわりファーム》<http://www.kodawarifarm.com/>をご紹介します。

もの作りにこだわった生産者と、意識の高いユーザー様とのコミュニティ創りをモットーに、ユーザー様には農業を知って頂きながら、より美味しく味わって頂くチャンスを提供させて頂きたいと願っております。お祝い、お見舞い、お中元、お歳暮にご利用ください。

20年前、私はカリフォルニア州立大学農学部で10年間勤めておりました。その間、日本の外務省・農林省の外郭団体が、2年間の派米研修プログラムを組み、この大学へ研修生として、日本で果樹農家を経営している子弟を送っておりました。10年間このプログラムのコーディネータ及び講義中の通訳者として、日本の青森から沖縄までの、研修生の青年たち300人ほどと、かかわりました。その後、州立大学を辞め、長男の興しましたソフト会社にて10年こき使われましたお蔭で、ITの世界を普通以上に知ることでもできました。次男ダニエルが日本に住みついたのできっかけに、昔の果樹生産の青年たちをリンクし、ECが展開できないか模索しておりました。サイト・デザインを次男にやってもらい、WUB関西大会のために訪日したのを機に、65歳のオーバー(方言: お婆さんの意)の夢を、遂に現実のものとなりました。サクランボに続きジャム、桃、プラム、梨、りんご、ミカン、柿、バラの花、など、もと研修生の生産しているものをアップしてゆきますので、どうかご利用ください。

なおWUB会員の皆様の知人、友人またはエーカヌチャー(親戚の意)に、このサイトをご紹介して頂ければとも願っています。

## 「世界大会を振り返って」

小畑 耕行

突然だった。2004年8月13日の夕方の便でポリヴィア・アルゼンチンに出発する直前になって、次回世界大会の開催地がペルーから日本に変更されるらしいという話が耳に入った。それも大阪でと・・・。

WUB関西では、2006年の世界大会開催を目指して準備を進めており、10月にリハーサルとして第2回ビジネス交流会を開催しようとしているところだった。元々メンバーが少ない上に、大イベントを仕切るには人材が不足し過ぎている、これはえらいことになる、そんなことを思いながら長旅をして、ポリヴィアで移住50周年記念式典に参加した後、8月16日の午後アルゼンチンに入った。

翌17日の朝から第8回世界大会が開催されたが、開会セレモニーが終わった直後に、長嶺会長から「朝のIT会議で次回世界大会はやはり大阪でやるという話が出た」と聞かされ、「WUB関西の現状ではとても無理なので昼のIT会議の際に再度断っていただけませんか」とお願いした。昼の会議の席上で、開催当事支部の仲里会長はもちろんのこと、長嶺会長もWUB関西の現状を説明して、とても受けられない旨を強く主張されたとのことだったが、結局は押し切られて受諾する羽目になってしまった。

翌日はオプション・バス・ツアーで郊外の観光牧場に出かけた。昼食後の団欒の時間に、各支部会長が談笑している脇を何気なく通り抜けた時、長嶺会長から大きな声で呼び止められた。声をかけられていたのに気付かず、横をスーッと通り過ぎる恰好になっていた。「仲里会長がおられるのに、どうして知らん顔して行くの?」と少し強い口調で言われた。別に避けるつもりはなく、各支部会長の一団は自分には関係ないというぐらいの軽い気持ちだったのだが、どこかに火中の栗は拾いたくないという思いが働いていたのだろう、仲里会長の苦境を思いやる気持ちが込められた長嶺会長の言葉を聞いた瞬間、頭から冷水を浴びせられたような感覚が走った。急遽の開催地変更には依然として割り切れない思いがあったが、苦渋の決断をして悲愴感にも似た気持ちで開催を受けざるを得なかった仲里会長の心境を考えると、個人的に抵抗感があるなどと言っている場合ではなかった。『仲里会長のために一肌脱ごう!』と強く思った。

日本に帰る機中で仲里夫妻と打合せをして、帰国したら早急に実務的に動けるメンバーを集めて欲しいとお願いした。9月中旬に構想を固めれば半年間の準備期間が持てるという思いからだった。然し、この時点では誰が実務メンバーになるのか想像がつかなかった。

帰国すると、案の定、仲里会長はWUB関西のメンバーから袋叩きに遭った。ある日、仲里会長宅を訪ねると、前に一度、WUB関西の定例会で会ったことのあるような人が来ていた。はっきり覚えていなかったが、何となく記憶があった。世界大会までの要遂行作業のことや大会テーマの重要性について話をすると、砂に水が浸み込むように何もかもが的確に理解されて、当を得たレスポンスが返ってきた。実に頼もしい行動力のある人だと感心し、実行委員長はこの

人をおいて他にないと直感した。八城正明さんとの出会いだった。

大会テーマやプログラム構成の決定、実行委員会の組織作り、予算の確保等、決めなければならないことが山ほどあった。ほどなく八城さんが実行委員長に決まって、大会成功への大きな第一歩が踏み出されることになり、大いに満足し安堵の胸をなで下ろした。思った通り、八城委員長は大会テーマやプログラム構成、委員会組織の原案作成から決定へのプロセスを精力的に推進され、大会のイメージは日を迫うごとに固まっていった。原案ができた段階で仲里会長と八城委員長が来京され、世界大会の概要説明と第2回ビジネス交流会への出席依頼が行なわれた。

これと並行しながら、世界大会のリハーサルとして当面の目標である「第2回ビジネス交流会」に向けての準備も、やはり八城さんを中心として行なわれた。この頃から八城さんの提案で弟の勝彦さんも担ぎ出されることになった。WUB関西メンバーの長山さんは、交流会の前日まで仲里建設の事務所に殆んど入り浸りの状態で準備をした。10月26

日の第2回ビジネス交流会は、八城勝彦さんの司会で粛々と執り行われ、成功の内に幕を閉じ、いよいよ本番の「第9回世界大会 関西2005」に向けて、本格的な準備に取り組むことになった。

ビジネス交流会が終わって暫く経ったある日、三軒茶屋

の「古都首里」に行くと珍しく女子栄養大学の宮城先生がオーストラリアの方と二人で来られていた。久しぶりにお会いしたのでお話をしたいと思っていると、先生はお連れの方が帰られた後も店に残られて、話をする機会が持てた。色々話している内に、話題がWUB関西の世界大会テーマの一つである「食」に及び、26ショックのお話を伺った。大会テーマの本質を突く話題だった。これしかないと思い、ここぞとばかりに大会での基調講演のお願いをして、ご内諾をいただいた。後日早々に、仲里会長と八城委員長にこの件を説明すると、正に大会に相応しいお話だということで、正式にお願いすることになり、基調講演の一つ目の内容が決まった。

年内は、委員会の組織と各部会長、主要メンバーの決定を行なうところまでで精一杯で、本格的な活動は年を越してすぐに開始するといった状況のうちに2004年が暮れた。年が開けて本格的に活動を開始することになったものの、なかなか皆の日程が合わず、当面、各部会ごとに寄り合って実行計画を作ることになった。この時点で、残り日数は既に3ヶ月を切っていた。

とにかく予算を確保しないといけないので、プログラム部会では広告取りをするために、一日も早く趣意書や大会案内が必要だった。広告料はWUB東京の前例に習うことにし、大急ぎで印刷をかけて、大会案内ポスターも併せて広告



第2回 関西ビジネス交流会 (司会は八城勝彦氏)





大会の開会を待つ世界中から集まった140名の参加者達。

取りセット一式ができあがった。

プログラム部会を中心に手分けして広告取りを行なったが、ここでも八城兄弟が抜群の力を発揮した。もちろん、仲里会長や嘉手川副会長をはじめ、それぞれのメンバーも自分のネットワークをフルに活用して、必死になって広告を取っていった。自身の仕事の関係で接触できる企業や個人にはそれぞれベースに違いがあるが、宮城さんのように自分にでき得る限りのネットワークを利用して、広告料より多くの飲み代を払ってまでも、広告を取って来ようとする人もいた。日頃はなかなか分からない真摯な姿と責任感に深く心を打たれた。

また、WUB関西を応援すると言って、ぼんと寄付をする人もあった。「すごいですね」と八城委員長に言うと、「これも仲里会長が長年に亙って地道に人の輪を拡げて、大会を睨んだ種まきをやって来られたお陰ですよ」と、いたく感心されておられたのが、深く印象に残っている。それぞれが必死になって広告を掻き集めたお陰で、予定より多くの資金が集まったが、最後に八城兄弟のお父さんが多額の寄付をされたと聞いて、思わず驚嘆した。後日、世界大会当日の夜のパーティで、お父さんとお話する機会があったが、「息子達にこんな機会を与えてくれてありがとう、ホント良い経験になったわ、これも財産や！」と仰るのを聞いて、『この父にしてこの子あり！』と感慨を新たにした。

最終的には資金は予算を上回るようになったが、広告の入り状況は当初の締め切り予定から大幅にずれ込み、プログラム・ブックレットの原稿確定はべた遅れになった。編集の責任者だった八城勝彦さんには、紙面作りに四苦八苦する毎日が続くことになった。大会寸前になって、もういよいよ印刷が間に合わなくなるギリギリの時間まで、契約を取った大手広告主の原稿入手に実行委員長が奔走するという場面もあった。

定例的に毎週金曜日の18時30分から21時過ぎまで、沖縄県事務所を借りて大会準備会を行なったが、プログラムの内容や進行スケジュール、会場設計や旗類の手配等、八城兄弟が実作業をこなさないとなかなか前進しなかった。記念品やノベルティー類は仲里会長が最も心を砕かれた準備品だった。ビジネス交流会は企画をまとめて参加の募集をかけるのにやや手間取ったが、これも委員長がてこ入れして漸く参加募集メールの発信に漕ぎ着けた。会長交代式典は勝彦さんを司会に指名したことで順調に推移した。パー

ティは有償出演の路線で問題なく推移した。オプション・バス・ツアーは、大会当日近くまで参加者が未確定で予定が立ち難かった。大会が始まって一応の受付が終わった時点では、参加予定者は50名程度だったが、二つ目の基調講演で比屋根会長のお話が終わると一挙に81名に膨れ上がった。大会翌日のツアー出発時点では、更に85名に増えていた。

ともあれ、様々な人々の思いや不安、愚痴や不満、使命感や達成感を一緒に飲み込んで、世界大会は終了した。本大会への参加者は140名、パーティ350名、バス・ツアー85名という結果であった。

大会成功の最大の要因は、仲里会長の数  
年越しの地道な人脈作りと奉仕的活動、その結果の八城委員長の確



万全を期し、会員の前日受付を行い大会当日の受付はスムーズ。

保に尽きる。八城さんは、「乗り掛かった船や、やらなしゃあない！」と言いながらグイグイ実務を推進されて、遂には弟の勝彦さんをも担ぎ出し、大会当日にはヤシロの社員を沖縄から13名も出張させ、本社からも7名を繰り出して有能なスタッフを一挙に20名も投入するなど、正にボランティアの鏡のような活躍をされた。立場や事情によって、できる範囲には個人差があるが、WUBの活動は基本的に献身的なボランティア精神によって支えられていると考える。WUBに入れば、即、実ビジネスに繋がるとして入会する人もいるのだろうが、それでは長期に亙ってWUB活動を続けることはできない。実ビジネスに繋がらなくても、肝ぐくるの想いを共有できるメンバーとの交流は、心豊かな精神生活を生み出す。これこそが正に沖縄の心なのだと思う。

大会成功の陰には、表からはあまり目立たないWUB関西メンバーの存在もあった。PCやインターネットを自在に使用せず、何か貢献したいがなかなかできずにムズムズしていたメンバーが、大会が近づき役割が具体的になってくると大いに力を発揮した。大会を成功させねばという強い思いが一体感を生み出し、各メンバーがそれぞれの持ち場で確りと責任を果たした。この体験は今後WUB関西の結束力に大きな効果をもたらすことだろう。

また、表面には出ず、陰で静かに仲里会長を支え続けた紀美子夫人の功労が、大会を成功に導く大きな役割を果たしたことも、決して忘れてはならない。

大会が成功裡に終わった今、とても爽快な気分である。WUB関西のメンバーも、心地よい充実感に浸っていることと思う。皆、天に感謝するといった心境なのではなからうか。パーティの余興で八城兄弟が「あ〜りがとう！、ありがとう！」と唄いながら踊った姿が、今でも目に焼き付いている。終り良ければすべて良し！仲里会長の人徳と長年に亙る努力が実を結んだ素晴らしい大会だった。「WUB関西、本当によくやった！」と心から拍手を送りたい。



大会実行委員長 八城正明氏の開会挨拶



# 「IDB沖縄総会に出席して」

重田 辰弥

去った4月6、7日の二日間「WUB世界大会・関西2005」に出席した足で8日午後、伊丹空港から那覇へ向かい、第46回IDB（米州開発銀行）沖縄総会に長嶺会長以下WUB東京の仲間9名と共に出席した。

IDBとは中南米・カリブ海諸国の経済・社会発展に貢献することを目的に設立された地域開発金融機関。中南米域内28カ国以外に欧州中心の域外19カ国が参加、アジアでは日本と韓国の2カ国。それがなぜ沖縄大会か。

サミットに次ぐ“コンベンション・アイランド沖縄”の宣伝と、南米移民が多く、それに由来とするWUBの存在もあるかもしれない。「美ら島沖縄大使」を拝命する私もWUB東京と共に大会事務局の要請に応じ、協賛寄付した。事務局では寄付目標額の2億を軽く越したという。

そもそも、IDB大会に南米・ハワイを中心に多くの海外WUBメンバーが来日する機会に、WUB大会も、と要請され関西大会が決まった。これは東京大会とウチナンチュ大会、沖縄大会とサミット、ロス大会と北米移住記念祭等

と他イベントと連動、付随してWUB世界大会地が決まる前例を踏襲している。

4月10日、皇太子御臨席の宜野湾コンベンションホールでの開会式に

メンバーと共に出席した。過年、ボリビアを訪ねた際、先住民と白人マイノリティの所得格差に違和感を覚えたが、今回図らずもボリビア、ホンジュラス、コロンビア中南米3大統領のスピーチに直に接することが出来た。麻薬、誘拐、貧富是正、テロとわが国では想像も出来ない政策課題についての取組と支援要請、いずれ劣らぬ迫力あるプレゼンテーションが印象的だった。まさにIDBはこれら中南米諸国のためにあるのを感じた。

大会最終日、WUB（与那嶺真次IT会長）とIDB傘下の「米州投資公社」（IIC）間で投融資に関する協定が結ばれたが、WUBにとってその検証と活用が今後の課題である。



4月11日「沖縄コンベンションセンター」本会議

主催当局は国際会議開催のノウハウをそれなりに吸収したと思うが、率直なところ、参加者認証や過剰とも思えるセキュリティ体制の割には、会場内での食事施設や案内不備等には往生した。

決算から期初めと年度で最も社業繁忙な4月初め、社員の結婚披露宴もキャンセルして大阪から沖縄へ移動しながらの連日連夜の宴席続きで最後は体調を崩し、帰京後二日間欠勤、皆さんに迷惑をお掛けした。

## IDB沖縄総会の模様



●本会議後に催された万国津梁館にての「知事主催レセプション」は稲嶺知事自ら各国参加者をお出迎え



●IDB総会会場にてWUBインターナショナルとIDBグループで中小民間企業を支援する米州投資公社（IIC）は会社からの投融資を前提に、情報交換などを進める覚書に調印した。



●稲嶺知事の招宴のスピーチ



●数々のウェルカムイベントで歓迎



●関西大会を終え、ほっとされた仲里WUB関西会長の笑顔が印象的。



## WUB活動を通じての人的交流促進とビジネス創出の事例紹介

●はじめに: よく、「WUBとは何か」と聞かれる。大会や国際イベントばかりが目立つが、WUBのキーワードはいうまでも無くBusiness。「えーく」の一つの使命はこうした会員メンバー間のビジネス情報の情報交換です。会員同士のビジネスの成功、不成功事例。または会員個人のビジネス情報。あるいはもっと広義のボランティア、NPO、行政等の公的活動もご報告します。現実には会員の個人情報や顧客情報等ビジネス上の守秘義務から発信できないものもありますが、支障ない限りの情報発信によって、会員間のビジネス・チャンスやマインドの交流・喚起を図り、WUB設立本来の趣旨に資したいと思っています。

●沖繩から全国へ情報発信します(屋良 朝夫)  
 沖繩在住会員の屋良です。今回報告させていただくのは当社、光文堂印刷の私の部署で発行しています季刊雑誌「沖繩市場」が6月20日発売号から本格的な全国発売が決定しました。今回、全国発売を可能にしたのはソフトバンクパブリッシング(株)との販売協力提携が締結したことにより、全国配本という厚い壁を突破することができました。この雑



誌は「つくる人と食べる人をつなぐ、くらしの食マガジン」というコンセプトで、沖繩発の暮らしの食マガジン!として、こころに良いもの、カラダに良いものを豊かな暮らしにつなげたい。沖繩の元気な農水産物の紹介を中心に、産地や地域情報を通して、つくる人(生産者)と食べる人(消費者)をつなぎ、こころにも、カラダにもやさしい生活を沖繩から全国へ発信することです。私は仕事の関係で約6年、東京で生活することになり、その際にWUB東京の皆さんと出会うチャンスに恵まれました。沖繩を離れてみて、沖繩の善し悪しも共有できる仲間を得たことがこの雑誌「沖繩市場」への取り組みの起点になっています。今後この「沖繩市場」は雑誌以外の展開も検討していき、皆さんのビジネスとの関わりも広げることができると思います。本屋でこの雑誌をみかけたら「屋良、元気でやっているなあ」と手にとって見てください。(気に入

【10月】26日/WUB関西主幹の「第2回 関西ビジネス交流会」が大阪丸ビル第一ホテルにて開催され、東京からは長嶺会長、大城副会長、小畑監事、高倉理事、三島事務局長が参加。

【11月】4日/沖繩ツーリスト東京支店にて理事会。「えーく4号」編集、「関西ビジネス交流会」報告、「IT勉強会」「2004年忘年会」開催の打合わせ。

12日/「WUB東京 IT勉強会」開催。講師に琉球大学 米盛教授(写真右)と日本ユースウェア 倉持社長を迎え、ITの新しい活用法などWUBネットの有意義な活用について指導いただいた。WUB関西から大湾事務局長も出席。



【12月】3日/LAで行なわれたWUB国際ナショナル理事会には、WUB東京を代表して齋藤陽子会員が代理参加。



3日/「WUB東京忘年会」のため緊急理事会。関西大会への協力を確認。

16日/霞が関ビル 東海大学校友会館にて「2004年WUB東京拡大例会・忘年会」開催。関西大会での基調講演予定の宮城重二教授をゲストに、大会実行委員長



の八城氏も迎え、関西大会盛り上げムード全開。



【1月】20日/「古都首里」にての理事会は、関西大会、WUB ITホームページ制作、就職の翼についてなど議題が盛り沢山。またこの日は小畑さん、菅原さんの合同誕生会。焼き肉金城さ

### WUB東京 フラッシュバック (04年10月~05年5月)

んから差し入れもあり、多いに盛り上がりました。ごちそうさま。

27日/湧川さん(在沖WUB東京会員)の上京に合わせて新橋「なんくるないさ」にて懇親会。



【2月】17日/理事会(沖繩ツーリスト)。(株)アイスプランニング代表取締役 前川昌道氏、日本大学国際関係部 福井千鶴助教授がオブザーバー参加。定例理事会を毎月第4水曜日開催に変更。IDB(米州開発銀行年次総会)への寄付金、WUB東京バッチの作製、関西大会について。



【3月】22日/東海大学校友会館にて、WUB東京・関東沖繩経営者協会 合同での沖繩県東京事務所、伊佐所長・呉屋次長、那覇市東京事務所新城所長の歓送会。

23日/理事会(沖繩ツーリスト)。間近となった関西大会について、「えーく5号」の制作と新体制検討。出来立てホヤホヤのWUB東京バッチを配布。



【4月】6~8日/「第9回WUB世界大会 関西2005」。東京からは会長以下16名が参加(配偶者、家族含む)。

27日/理事会(沖繩ツーリスト)。「WUB東京総会」の準備および関西大会およびIDBに関する報告があった。



【5月】25日/東海大学校友会館において「2005年度WUB東京総会」開催。ゲストを含め36名が参加。



たら買ってください)。

### ●「就職の翼」とWUB (又吉 孝)

沖縄県内五私大在学中の学生の本土就職を支援する「県私大就職の翼」(正式名称は、沖縄県私大就職指導協議会「就職の翼」)へ今年もWUB東京から9名が協力参加した。今年も、沖縄国際大学、沖縄大学、名桜大学、沖縄キリスト教短期大学の52人が参加。様々な合同就職説明会や就職フォーラム等スケジュールがビッシリと埋められた4泊5日間の中、WUB東京がプランニング協力参加した「就職講演会&グループディスカッション」(約2時間)は、大きな目玉企画として位置付けられていた。長嶺会長や重田最高顧問から東京での就職の心構え等についての就職講演会を行った加えて今年新しい試みのグループディスカッション討論では、統括コーディネーターとして私が進行を行い、菅原律子副会長をオブザーバーに平良智広理事や上原永大氏、将来のWUB東京メンバー候補者2名を加え、東京で働くメリットや東京暮らし全般、東京で長続きするコツなどのテーマに分かれての意見交換をおこなった。引



き続き夜の懇親会へも参加し、キリスト教短期大学卒業生でもある国吉理事も駆けつけ、参加者全員で盛り上げて頂いた。



WUB東京として初めて協力参加した3年前は、各大学の就職課担当先生の方が感銘を受けていたが、今年就職活動に対する学生の意識が変わってきている事を感じ取れた。

WUB東京としても今後も協力していく方針を決めたが、良い意味での伝統として受け継がれていけるような「就職の翼」になるよう、各大学へも意見、提案をしていきたい。数年後には、参加者の中から一人でも多く無事に就職活動を終え、WUB東京の仲間になっている事を願って。

「えーく」の一つの楽しさは上記のようなビビットな会員間のビジネス情報や消息・活動トピックス。皆さんの投稿歓迎です。但し、ご覧のように限られた予算とスペース。どうか字数については編集サイドの要望にお応え頂くようご協力をお願いします。

## WUB東京会員の近況報告

●国吉 真理子：「もったいない」この言葉が今、“MOTTAINAI”となり、世界を駆け巡り始めました。きっかけは2月に毎日新聞社招聘で来日された、アフリカ女性初の2004年ノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイさん(ケニア環境副大臣)。マータイさんの来日中通訳として同行し、現在は、マータイさんと共に“MOTTAINAI”を世界に発信するために発足した、毎日新聞社“MOTTAINAIキャンペーン”(マータイさんが名誉会長就任)で通訳をしています。今後の“MOTTAINAI”の動きと広がりにはぜひご注目ください!

●高倉 玲子：若者がインターネットTV出演依頼にきた。「古都首里」取材というよりも高倉へのインタビューが主だった。故郷沖縄を現在の活動や職を通して熱く語って欲しいという内容であった。私ごとがおこがましいと迷ったが、「沖縄調査隊」という番組を製作しているメンバーはボランティア中心でNPOである事と、若者たちの純粋な気持ちに打たれて引き受けた。番組の出来は上々で、その後、担当者の津田さん(うちなーんちゅ)をWUBのメンバーに紹介し、最近彼は会員になりたいと意思表示をしている。出会いは楽しいものですね。

●高宮城 徹夫：4月17日6時よりWUB東京在沖会員の花城可雅さんのプロデュースにより北中城のレストラン・バー「ピアニッシモ」でバイオリンコンサートを開催しました。会場のアットホームな雰囲気の中、私もとても気持ちよく演奏でき、特に



2部の弦楽四重奏を加えたポピュラー曲ではお客さんにもとても喜んでいただきました。

●平良 智広：名古屋に転勤になり、早一年が経ちました。中部国際空港、愛知万博に象徴されるように、本当に今の名古屋は元気がいい。もっとも名古屋人いわく「石油ショックの時も同じで、単にこつこつと真面目にやっているだけ。勝手に回りが落ち込んでいる!」とのことですが。商売的には渋いと評され手ごわい地域ですが手ごたえも出てきましたので、このお祭りムードにうまくのり、このまま2年目も突っ走って行きたいと思っています。でら頑張ったるて〜!

●讀谷山 洋司：愛媛と言えば皆さん何を連想されますか? 読書好きの方なら正岡子規、大江健三郎、「坊ちゃん」「坂の上の雲」「世界の中心で、愛をさけぶ」など愛媛出身の作家や愛媛を舞台とした小説でしょうか。また少し「通」の方なら住友化学、エリエール、ユニチャーム、井関農機、サイボウズなど愛媛発祥の企業を思いつかれるかも知れません。勿論みかんも。このように本当に奥の深い愛媛県の総務部長を4月に拝命しました。行財政改革、議会対策などキツイ仕事ばかりですが、「イチャリパチョーデー」精神でがんばっております。

●花城 可雅：在沖会員の花城です。ここ2、3年、東京出張中の会員がつつぎと古里へ転勤となり、在沖会員も増えてきたため懇談会が開かれる機運も生まれました。私自身はWUBを介したビジネスとは無縁であります。WUB東京会員との交流を楽しんでいます。最近では、重田顧問のおかげで、沖縄市プラザハウスにおいて新たな交流会がありました。一もっとも重田さんが沖縄出張の折、発熱、悪寒を訴え、私がホテルまで往診した(インフルエンザだった)ことがきっかけなのですが一 出張の際は在沖会員にお声掛けくだされば嬉しいです。

●新入会員紹介 (2004年11月から2005年5月末日現在)

倉持 誠(くらもち まこと) 11月19日入会 mkuramoc@j-useware.co.jp 日本ユースウェア(株) 代表取締役 職種: ビジネス・アライアンス 連絡先: mkuramoc@j-useware.co.jp



情報発信  
掲示板

2000年4月に浦添商業高校を卒業後、東京に本社を構えるコンピュータ会社に入社しました。約3年間オペレータを経験後、現職システムエンジニアを務めています。私の下には、沖縄の後輩が数十名おりますので、外で得た知識や誇りを彼らにも伝えていけたらと思います。



野田 彩香(のだ あやか) 5月23日入会 nodayaka@hotmail.com スターツ(株) (不動産賃貸仲介)



学生の頃高倉さんのお店で働いており、そこでのWUBの方々と素敵な出会いがきっかけで、今回入会させて頂きました。WUBに期待することとしては、人生の先輩方と純粋に仲良くなりたい、色々とお話したい、世界を広げていきたいというのと、まだ社会人2年目ですが自分もビジネスの中を深く彫りこんでいきたいのでその可能性を広げられればと思っています。口下手ですが、どうぞ宜しくお願い致します。

WUBに期待すること: みなさんと人間力の向上が図れることを願っております。私はウチナーンチュではないのですが、会でお会いしたみなさんの「イチャリパチョーデー気質」に惹かれ入会させていただきました。仕事はアイデアの創出やプランニングの支援ツール“MindManager”の販売とその活用方法をご提供しています。出会いを大切に皆様と共に成長させていただきます様どうぞ宜しくお願いします。

安田 喜信(やすだ よしのぶ) 11月29日入会 新宿区早稲田生まれ、(株)澤本商店 代表取締役。世の沖縄ブーム以前から沖縄の自然と文化に魅かれ泡盛やオリオンビールを東京で紹介し続けている。Tel:03-3202-6632 Fax:03-3202-6642



斎藤ダニエル実(さいとうダニエルみのる) 12月16日入会 北米在WUB東京会員 斎藤陽子さんのご子息 Digital Sonar(デジタルソナー)代表。Tel:046-888-8817 daniel@digitalsonar.com

江城 嘉一(えしろ よしかず) 3月7日入会 YEshiro@visa.com OCAP Systems Planning & Support 金融HOST系 SE Tel:6(920)2825 Fax:6(920)2428 はじめまして、沖縄県那覇市寄宮出身の江城と申します。

■編集後記

今回の第5号は第9回WUB世界大会関西2005やIDB総会参加者のご報告。また東京・沖縄・北米の会員の日頃の活躍のご報告と、多くの皆さまからの声をお載せでき盛りだくさんの紙面となりました。ありがとうございます。ただ、我らがダンディーWUB東京である三島事務局長が病気療養中のため、皆さまご期待の編集後記にいつもの素敵なコメントが載せられず寂しい限りでございます。会員一同お早いご回復を心からお祈りいたしております。

デジタルソリューションのための  
ベストパートナー



私たちは、お客さまにとって  
最適な情報環境をご提供する  
情報戦略のプロフェッショナル企業です。

業務内容: 各種事務処理系アプリケーションの開発から、ハードウェアの選定・導入から運用。[WEB系ソフトウェア][DBソフトウェア][CGソフトウェア]など各種アプリケーションの開発。クライアント・サーバシステム(CSS)にかかわる各種ソフトの設計、開発、コンサルティングなどデジタルソリューションに関わる全ての業務を行っています。

インターネットグループウェア  
提供サービス  
Internet GroupWare  
らくらく手帳  
http://www.rakunote.com/

琉球王国の交易市場  
おぎんレイチ  
Okinawa1.co.jp  
http://www.okinawa1.co.jp/

NAS 株式会社  
日本アドバンストシステム  
http://www.nasbi.co.jp/  
本社 東京都品川区西五反田2-12-3 第一誠実ビル TEL:03-5759-1781 FAX:03-5759-1627  
静岡事務所 名古屋事務所 大阪事務所 沖縄事務所



ねっ? 違うでしょ? これが沖縄の海。

創業40余年 迅速・確実なサービス  
信頼のマーク 北海道から沖縄まで……全国34店のサービスネット  
沖繩ツーリスト  
東京支店 銀座案内所  
TEL(03)3509-6311 TEL(03)3562-6455  
港区新橋1-13-12 (銀座わたしたショップ内)  
E-mail:tyo@otsinfo.co.jp